

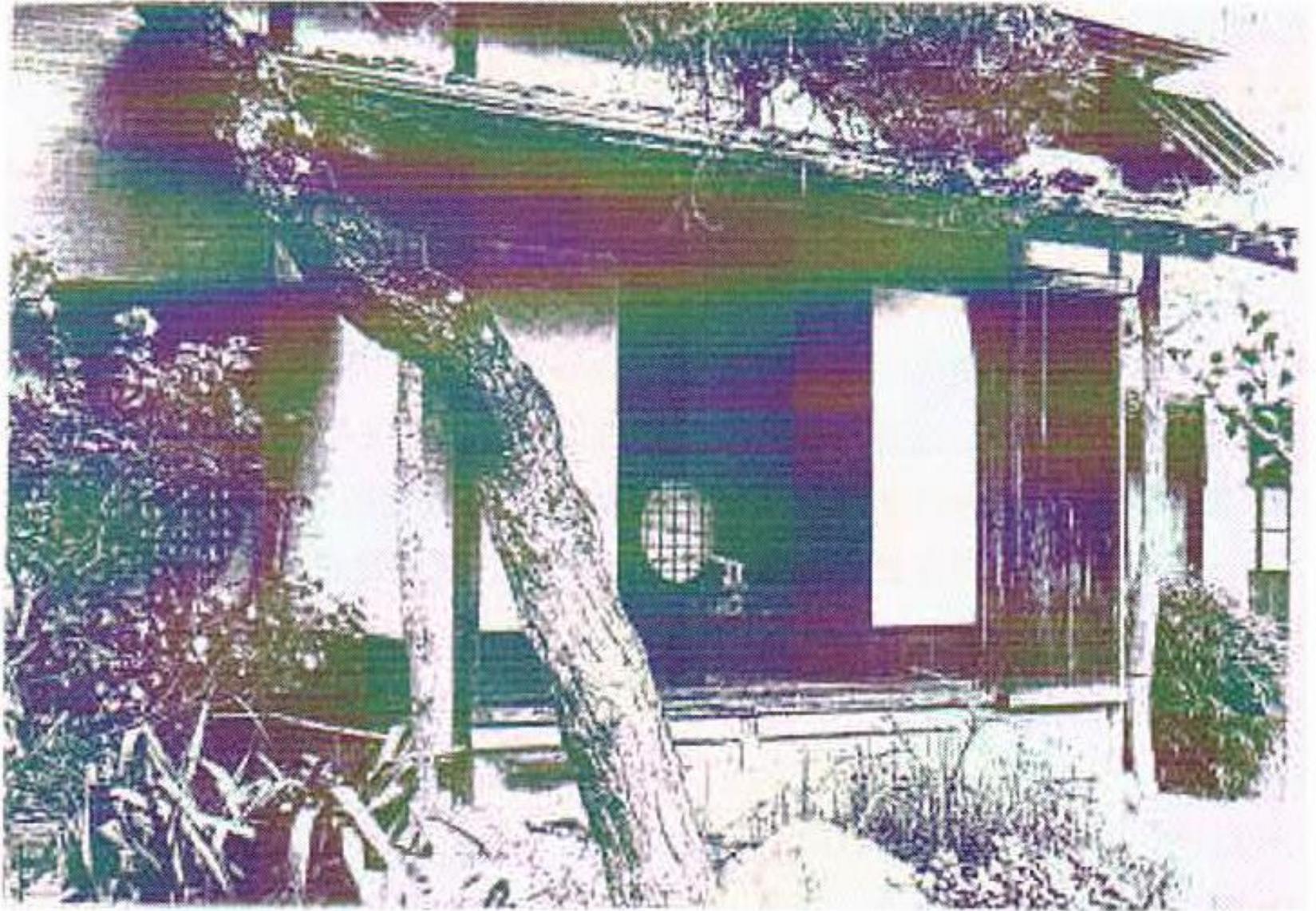
大條家茶室の復旧・保存祈念講演

御茶室物語

伊達 宗行

2018年6月9日
「大條家ゆかりの茶室」フォーラム

図一1



大條15世道直が拝領した茶室

坂元三の丸

図一3

大條・伊達歴代図

世	名、呼称	生没年	治家	法名	室	備考
1	孫三郎宗行	～1442	15～42	徳本万春院殿大岳全舌居士	—	伊達8世宗遠3男
2	内記宗景	～1467	42～67	雲祥院殿雄峰賢英居士	—	
3	掃部宗元	～1500	67～00	千勝院殿運外良齋居士	—	
4	三郎宗澄	～1507	00～07	不錯院殿直心智性居士	—	成宗と上洛1483
5	左馬助宗助	～1555	07～53	雪嶺院殿孤山不白居士	—	天文の乱42～48
6	参河宗家	～1576	53～76	南陽院殿一岳道曾居士	小梁川泥範姉	植宗孫、留守家
7	尾張宗直	～1610	76～10	清節院殿竹菴盛公居士	新田景綱女	政宗に奉仕
8	三郎宗綱	1585～1617	10～17	心月院殿本室円公居士	日照院殿	坂元初代-1616
9	兵庫宗頼	1602～1676	17～62	勝福院殿向外不求居士	奥山出羽女	大條実頼の子 (不求と号す。寛文事件1671に対処。1618年伊達の一家になる。綱村の信厚し)。
10	監物宗快	1622～1686	62～82	海禅院殿竹巖齡松居士	宮内因幡女	寛文事件処理
11	監物宗道	1651～1705	82～93	大光院殿智岩普照居士	石田孫市女	日光修理奉行 (初め宗直、綱村命で宗道。1692年、初代宗行250年遠忌法要、徳本寺墓石移動)
12	監物道頼	1700～1762	15～62	徳春院殿寿盛万祐大居士	安房実氏嬢子	吉村～重村三代頼 (吉村坂元に1730、奉行引退後、重村に再奉行、城中駕籠御免、禄高4000石)多門
13	監物道任	～1810	62～89	教学院殿山井玄海居士	茂庭石見女	篤恭、道頼次男
14	監物道英	1772～1825	89～25	智照院殿慧戒定心大居士	安房村好嬢子	
15	監物道直	1796～1876	25～43	環翠院殿道直是水大居士	古内主膳嬢子	環翠、是水 (齐義-齐邦継嗣問題処理で秀吉-政宗の茶室拝領。後、川内、支倉、坂元へ)
16	監物道洽	1808～1895	43～64	慈照院殿寿山慎徳大居士	西大條女みち	後に伊達宗茂
17	孫三郎道德	1838～1924	64～07	碩寛院殿竹堂翠雨大居士	天童延	後に伊達宗亮 (幕末-維新に対処。1858名代奉公、1859上洛、1861若年寄、1863に1-28で失脚謹慎。1864奉行。1867大政奉還。1868正月鳥羽伏見の戦い。同月道德に上洛令、2月10日仙台発、建白書は出さず世子引き取りで閏4月3日帰仙。引退。同月23日奥州列藩同盟、9月10日降伏決定。再度奉行で終戦処理、12月15日木戸孝允に陳情。明治5年5月14日慶邦命で伊達に復帰。号 翠雨)
18	伊達宗康	1870～1952	07～52	義照院殿俛徳梧川大居士	大和田歳	梧川と号す (大條家500年祭举行 1941、墓地整理、大條家500年祭小志発行、戦争は41～45年)
19	伊達宗雄	1896～1983	52～83	翠楓院慈覚宗参居士	伊達瑤 岩出山	宮城師範教授 (大條・坂元350年祭举行 1966、大條家坂元開邑350年祭小志発行)
20	伊達宗行	1929～	83～		日下靖	大阪大学教授 (大條家御廟を山元町文化財指定に、2004)

仙 臺 志 料

上

三食_レ所_レ毒_レ鱸魚。直_レ仆。母在家自_レ殺。宗輔族誅後。命_レ族人_レ立_レ祀。

豊公設茶寮

豊公就_レ天主閣下。設_レ四所茶寮。一寮徳川公_レ主_レ之。一寮前田氏。一寮納言公。一寮豊公自_レ主_レ之。非_レ時招_レ諸將。互_レ爲_レ賓主游_レ娛。一日早晨。上杉淺野佐竹加藤四氏過_レ納言公。以_レ寒甚_レ進_レ熱羹。加藤氏一啜損_レ吻。豊公聞_レ之大笑。

中村盛時

小手森役。敵勢如_レ潮。中村盛時多力。揮_レ大刀_レ仆_レ二人。刀最上名刀。所_レ當無_レ敵。一

豊臣秀吉公 茶室を作る

秀吉公が、天守閣下四ヶ所に茶室を作った。

一つは徳川公に、一つは前田公に、一つは政宗公に、
そして一つは自分のものとして、気ままに諸將を呼び込んで楽しんでいた。
ある日早朝、上杉、浅野、佐竹、加藤の四人が通りかかった。政宗公は呼び込んで、寒い朝なので熱いお茶を出した。加藤氏はガブリと飲んで口をやけどした。
秀吉公、これを聞いて大笑い。

岡千仞著「仙台志料」巻之四、十一葉 明治25年より。

伏見城下のエピソード。豊公とあるのは豊臣秀吉、

納言公とあるのは伊達政宗である。

東藩史稿卷之十四

仙臺 作並清亮 編纂

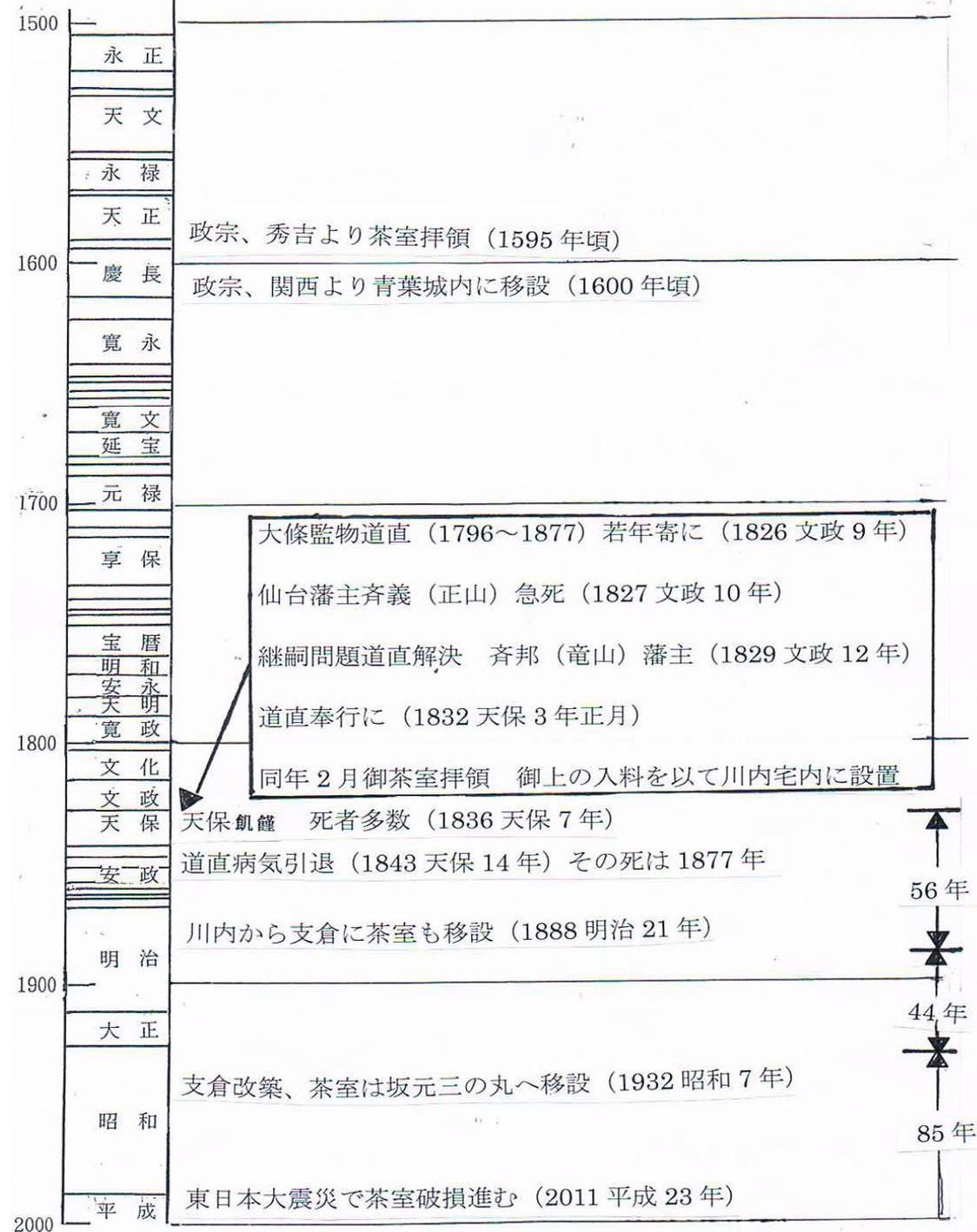
大條道直 祖道賴

大條道直、監物ト稱ス、小字ハ多門、後左衛門、姓ハ藤原、其先ハ定叟公ノ第三子、孫三郎宗行君ヲ以テ祖ト爲ス、事ハ公子傳ニアリ、道直性豪毅ニシテ明決ナリ、正山公遽カニ薨スルヤ、幕府ニ聞スルニ病篤キヲ以テス、幕府其嗣ナキヲ察シ、閣老水野出羽守ヲシテ、内命ヲ藩老ニ傳ヘテ曰、奥州病篤ク嗣ナシ、而シテ其室トナスヘキノ女、幼ニシテ未タ合番^{キ、}ノ禮ヲ成サスト、將軍一公子ヲ降シ以テ其女ニ配セントスト、藩老退テ同僚ニ告ク、皆曰國家長久ノ基喜フヘシ、獨道直其不可ヲ辨ス、其理ニ服シ、道直ヲシテ閣老ニ答ヘシム、道直即チ閣老ニ答テ曰、寡君病篤シト雖トモ、義子ヲ迎ヘコレヲ女ニ配ス、是其女ニ不貞ヲ教ユルナリ、義子タルモノヲ以テ義母ニ配ス、是義子ニ不義ヲ教ユルナリ、人トシテ此不義不貞ヲ行フ禽獸ニ同シ、上意ト雖モ奉スル克ハス、閣老釋ハス曰、足下食祿幾何ソ、答テ曰一萬五千石ト、其實ハ五千石ナリ、歸リテ其狀ヲ告ク、芝多佐渡歎シテ曰、子ハ國家ノ柱石ナリ、道直曰若シ閣老ノ怒ニ遭フテ國家ニ害アラハ、吾身ヲ屠ルノミト、遂ニ議シテ龍山公ヲ立ツ、事ハ文政十年ニアリ、道直時ニ年三十二、道直國老タル十餘年、致仕ノ後是水ト號ス、明治十年歿ス、年八十二、

仙臺史傳○東藩野乘ニ曰是年道直江戸ニアラス恐クハ國老芝多佐渡歎

図一6

御茶室年表



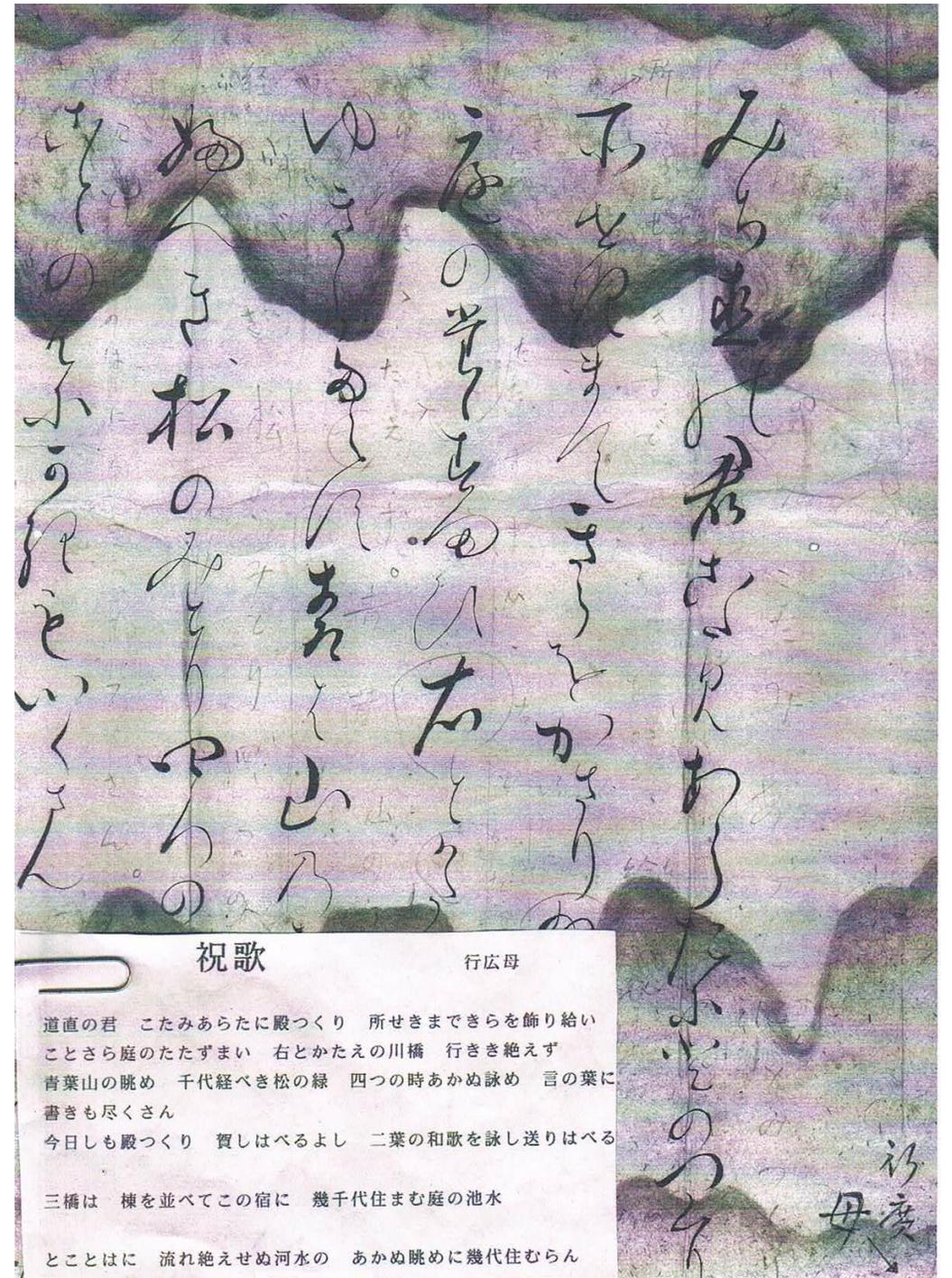
図一七

祝歌 行広母

道直の君 こたみあらたに殿つくり 所せきまできらを飾り給い
ことさら庭のたたずまい 右とかたえの川橋 行きき絶えず
青葉山の眺め 千代経べき松の緑 四つの時あかぬ詠め 言の葉に
書きも尽くさん
今日しも殿つくり 賀しはべるよし 二葉の和歌を詠し送りはべる

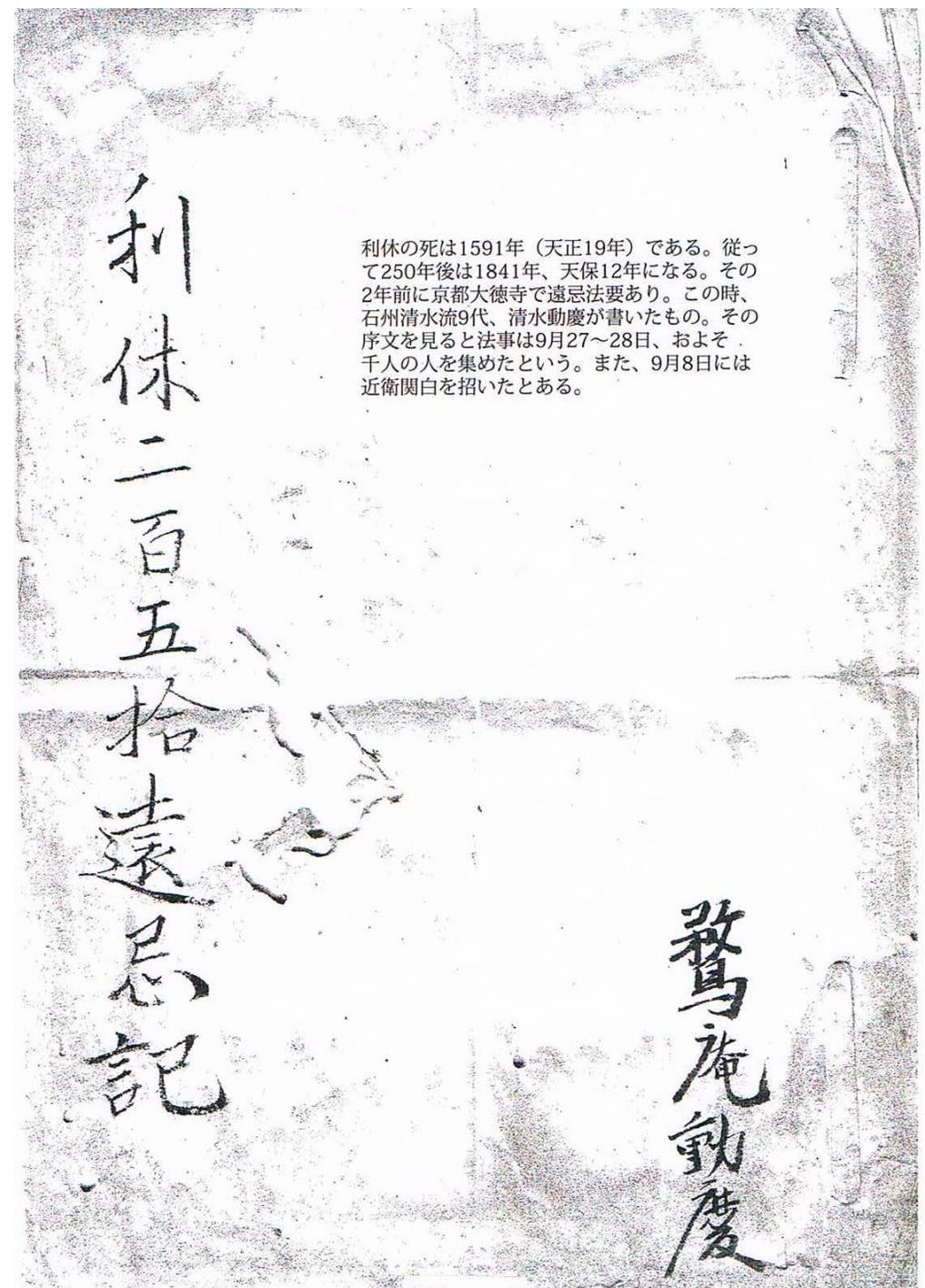
三橋は 棟を並べてこの宿に 幾千代住まむ庭の池水

とことほに 流れ絶えせぬ河水の あかぬ眺めに幾代住むらん



図一八

利休の死は1591年(天正19年)である。
従って250年後は1841年、天保12年になる。
その2年前に京都大徳寺で遠忌法要あり。この時、
石州清水流9代、清水動慶が書いたもの。
その序文を見ると法事は9月27日～28日、およそ
千人の人を集めたという。また、9月8日には
近衛関白を招いたとある。





氏家喜代子

大立目菊

菊地繁

伊達延

伊藤梅

三原忠男

平沢参治

伊達宗亮

伊達宗雄

伊達宗康

伊達亮治

大立目重雄

内山文雄

天童瀬代子

平沢亀一郎

支倉茶室前
大正10年11月5日

図一10

道直の時代 1796 ~ 1877

